

これからの学習を考える…

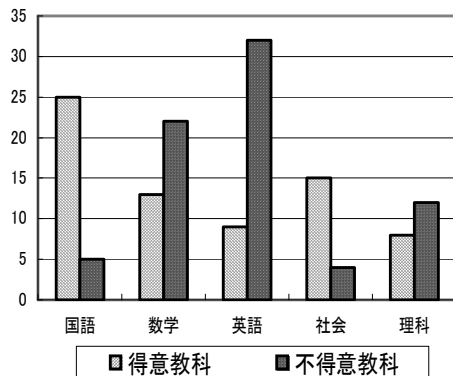
～中間テストの取組より～

中間テストが行われました。2年生は、すべての教科の答案が返却され、教室で一喜一憂している姿が見られました。今回は、2年生になって初めてのテストということもあり、家庭学習や授業をがんばり、5教科合計得点を100点近く上げた人もいました。その反面、授業に集中できない、家庭学習に身が入らないなどの理由により、かなり点数が下がってしまった人もいたようです。今回のテストは、できた人、できなかった人の差がはっきりとしたテストだったように思います。できた人もそうでない人も、テストを振り返り、今後の学習につなげることが大切だと思います。では、『今回のテストの結果をどのように生かすのか?』についてみなさんも考えてみましょう。

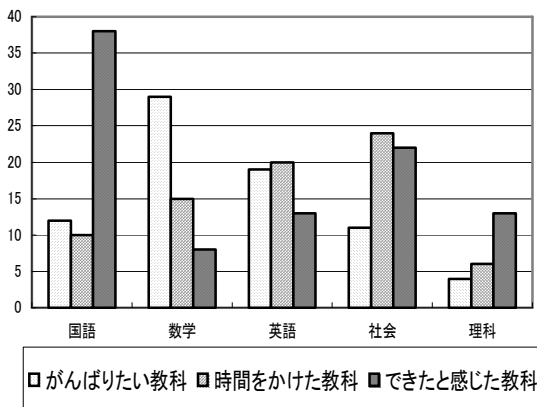
中間テストを振り返って (アンケートの結果より)

いくつかのクラスで、先日行ったアンケートの結果より、今回の中間テストを振り返ってみたいと思います。

《得意教科と不得意教科》



《学習やテストに対する意識》



今回のアンケートの《得意教科と不得意教科》の結果を見ると、**国語、社会が得意**であり、**数学と英語が不得意**であると感じている生徒が多いように思います。では、得意・不得意という感覚と学習やテストに対する意識には、何らかの関係があるのでしょうか。

左下の《学習やテストに対する意識》を見ると、多くの人が『**がんばりたい**』と思っているのは、**不得意と感じている英語と数学**。

しかし、『**時間をかけた教科**』は得意な**社会と不得意な英語**なのです。

そして、実際にテストを受け、『**できたと感じた教科**』は得意な**国語、社会**でした。

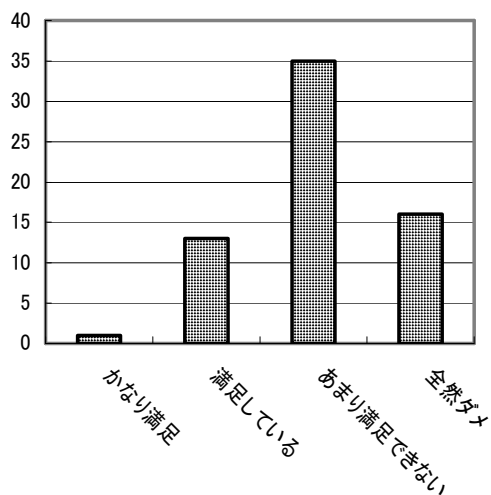
ということは、みなさんの多くは、不得意だからがんばりたい（苦手教科の克服）ということを目指しているが、実際は、思いだけで時間をかけ、集中して学習していないということです。当然これでは、『**できた!**』という達成感はありませんよね。しかし、得意だと感じている教科においては、時間をかけなくても、集中して効果的な学習方法で学習に取り組むことができるので、テストで『**できた!**』という達成感が得られるのでしょうか。だから、得意教科はさらに好きになるのです。この達成感がなくては、不得意教科は克服できないのです。

では、中間テストのためにいったいどれくらい学習時間をとっているのでしょうか。下の表は、普段とテスト2週間前の学習時間を比べたものです。

《テスト前と普段の1日の
家庭学習の平均時間》

学 習 時 間	普 段	2週間前
0分～30分	19人	11人
30分～1'00	17人	15人
1'00～1'30	12人	15人
1'30～2'00	8人	9人
2'00～2'30	6人	9人
2'30～3'00	1人	5人
3'00～3'30	3人	7人
3'30～4'00	0人	0人
4'00～4'30	0人	2人
4'30以上	0人	2人

《テストへの取り組みの満足度》



平均の家庭学習時間は、『普段は1時間程度』『テスト前は2時間程度』のようです。

この表から思うことは、**家庭での学習時間**が**かなり少ない(少なすぎる)**ということ。

普段の学習時間が少ないから、テスト前に見直さなければならないことが多くなる。これでは、テスト範囲を終わらすことも不可能になってしまいます。それが、『テストへの取り組みの満足度』にでていていると思います。

今回の中間テストへの取り組みに**満足できない人が学年の約7割もいる**のです。これは、最低限必要な時間(量)を確保していない人がこんなに多くいるということの現れだだと思います。

テスト前に「先生、学習は量じゃなくて質だよ。集中してやれば少ない時間でもかまわないよね。」と話しかけてきた生徒がいました。確かに質も大切だと思います。しかし、**学習には、最低限必要な時間(量)がある**と思います。その時間や量をこなさないと実力アップにはつながりません。

それでは、今回の中間テストを終えた、今、君たちは、この後どんなことに注意して学習すればよいと考えているのでしょうか。

- ①家庭学習を授業の復習を中心に毎日行う
- ②授業中は、先生の話をしっかり聞き、
ノートをきちんととること
- ③テストへの取り組みの開始を早め、
計画をしっかりたて学習すること

この3つのことは、君たち自身が今後の学習で必要であると感じていることです。全く、その通りだと思います。家庭学習の充実、授業への真剣な取り組み、計画的な試験勉強、この3つがなければ期末テストでの挽回はかなり難しいのではないかと思います。『テストの結果を向上させるにはどうしたらよいのか?』『期末テストで挽回するためになにが必要なのか?』このことについて一番よく知っているのは、実は、君たち自身なのかも知れない……………あとはそれが実行できるかどうかだと思います。

Memo